



平成 19 年 5 月 9 日

各 位

所在地 東京都港区六本木六丁目 8 番 10 号
会社名 オリコン株式会社
代表者名 代表取締役社長 小池 恒
(コード番号 4800 大阪へラクレス市場)
問い合わせ先 執行役員企業広報部長 日高輝明
TEL 03-3405-5252 (代表)

特別損失の発生と業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、下記の通り、平成 19 年 3 月期決算において特別損失を計上する見込みであるとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 18 年 11 月 20 日の中間決算発表時に発表した平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の連結業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生とその内容

中間期までに計上した特別損失に加え、新たに以下の特別損失を計上いたします。

①フランクリン・ミント株式会社

フランクリン・ミント株式会社は、平成 17 年 5 月に当社のグループ企業となり、コレクションアイテムを中心とした通信販売を行っております。売上高は、平成 18 年 3 月期が 582 百万円だったところ、平成 19 年 3 月期は 970 百万円を見込んでおりますが、効果的な販促が不足したことによる売上の不振、商品開発の遅れ等に起因して収益が回復せず、2 期連続で営業赤字となる見通しです。これに伴って、固定資産の減損に関する会計基準に基づき、営業権およびソフトウェア等の減損処理を行い、92 百万円を連結決算で特別損失として計上いたします。また、このことによってフランクリン・ミント株式会社が債務超過となることから、関係会社株式評価損 100 百万円、関係会社貸倒引当金 122 百万円を個別決算で特別損失として計上いたします。

すでに、新聞広告と DM 発送を中心とした広告宣伝を抜本的に見直し、WEB を活用した効率の良い新規顧客獲得策を推進しております。当社から WEB 事業に精通し、マネジメント経験を有する者を新社長として送り込み、事業の建て直しを図っております。早急に、月間ユニークユーザー数で 950 万人以上を擁する「ORICON STYLE」サイトの来訪者との親和性の高い商品、特にエンタテインメント系商品の開発を強化するとともに、クラシック、オペラ、フォークソング等のカテゴリーを立ち上げて、ユーザーの興味関心を喚起させるコンテンツを充実させ、関連商品を効果的に販売することで、新規顧客の獲得と収益の回復を早期に果たして参ります。

②CJ Media Japan 株式会社

CJ Media Japan 株式会社は、韓国最大のエンタテインメント企業グループである CJ グループにおいてメディア事業を担う CJ Media 株式会社の日本法人として、平成 17 年 8 月に設立され、CJ グループが保有しているエンタテインメントコンテンツを活用し、日本国内で CS 放送チャンネルの運営をはじめとするコンテンツビジネスを展開しています。当社は、「ORICON STYLE」サイトなどで CJ グループの持つコンテンツを優先的に配信する等の業務提携を推進するため、平成 18 年 4 月に第三者割当増資を引き受けましたが、平成 18 年度において、事業の立ち上げが遅れ、コンテンツ制作費等のコストも増加したことで、当初の事業計画より赤字幅が大きくなり、かつ平成 19 年度以降の計画も後倒しとなったことから、金融商品に係る会計基準に基づき、投資有価証券評価損として 80 百万円を連結決算および個別決算で特別損失に計上することといたしました。

③SNS サイトのシステム

平成 18 年 3 月期に SNS サイトを立ち上げるべく、システム開発を行いました。平成 19 年 3 月期において、エンタテインメントポータルサイト「ORICON STYLE」にユーザーコメントやレーティングなどの機能を付加することにしたため、このためのシステムに SNS 用として開発したソフトの一部を転用し、単独での SNS サイトを平成 19 年 3 月期中に立ち上げることを見送りました。このような状況を踏まえた上で、監査法人による資産の評価が保守的に行われた結果、当該システムに関わるソフトウェアを固定資産の減損に関する会計基準に基づいて減損処理を行い、49 百万円を連結決算で特別損失として計上いたしました。

2. 平成 19 年 3 月期連結業績予想数値の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 18 年 11 月 20 日発表）	6,500	80	△310
今回修正予想（B）	6,130	△80	△660
増減額（B-A）	△370	△160	△350
増減率（％）	△5.7	—	△112.9
前期（平成 18 年 3 月期）実績	5,693	590	272

※当社は個別の業績予想を開示していません。

3. 連結業績予想数値の修正の理由

①売上高

下期においては、WEB メディア事業において顧客満足度（CS）ランキング広告連動型広告を本格的に立ち上げ、ランキングのジャンル数および契約クライアント数の増加に伴って、広告売上が拡大いたしました。一方、ダイエット食品の CS ランキングについては、上位にランクインしたグローバルダイエット社、並びにファンケル社の商品の E コマースを自社で行うこととして、11 月よりサービスを開始しました。しかしながら、販売が低調のため、2 月より順次、両社とクライアント契約を結び、CS ランキングから 2 社それぞれの E コマースサイトにユーザーを誘導する広告モデル（クリック課金）に変更したことで、E コマースとしては計画を 288 百万円下回る見込みです。なお、ダイエット食品の自社での E コマースについては、3 月末で事業撤退いたしました。

さらに、上述したフランクリン・ミント株式会社の第 4 四半期に入ってからの上の落ち込みで、当該事業の売上が計画を 57 百万円下回る見込みであること、「ORICON STYLE」サイトのバナー広告売上の 1 月、2 月の予想数値に季節変動要因を過少に考慮していたため、バナー広告売上が計画を 55 百万円下回る見込みであること等もあり、売上高は予想数値を 370 百万円下回る 6,130 百万円となる見込みです。

②経常利益

以下の主な事由により、計画との乖離が生じたため、80 百万円と予想していた経常利益は、160 百万円下回る 80 百万円の経常損失となる見込みです。

- ・ダイエット食品の E コマース 　　　　　△30 百万円（※1）
- ・フランクリン・ミント事業 　　　　　△80 百万円（※2）
- ・バナー広告 　　　　　　　　　　　△44 百万円（※1）
- ・「患者が決めた！いい病院」 　　　　　△30 百万円（※3）
- ・過去に発行した書籍の廃棄 　　　　　△14 百万円（※4）

※1：売上高が計画を下回ったことで、予想した利益額を下回りました。

※2：売上高が計画を下回ったこと、原価率の高い商品の比率が上昇したこと等によって、予想した利益額を下回りました。

※3：昨年12月に発行した病院ランキング本「患者が決めた！いい病院」については、3年前に発行した時の状況を踏まえて損益計画を策定していたものの、今回の発行に際してのマスコミ露出が少なく、販売が低迷し、想定した返本率を上回る返本がありました。これによって、返品評価損が予想数値を上回り、さらに4月以降の返品調整引当てを計上したことで、予想した利益額が下回りました。

※4：在庫に対する評価をより保守的にしたことで、過去数年間にわたって発行した書籍の在庫を廃棄したことによる損失を14百万円計上いたしました。

一方、音楽ディストリビューション（モバイル事業）、雑誌事業等については、利益額が予想数値を若干上回る見込みです。

平成19年3月期の上期においては141百万円の経常損失を計上いたしました。下期においては経常利益を60百万円計上する見込みです。また、第3四半期（平成18年9月1日～平成18年12月31日）においては経常利益を99百万円計上いたしました。第4四半期（平成19年1月1日～平成19年3月31日）においては36百万円の経常損失を計上する見込みです。経常利益において、第3四半期より第4四半期の方が悪化しておりますが、第3四半期に「患者が決めた！いい病院」の営業利益として60百万円を計上したところ、第4四半期には当書籍の返本評価損や返品調整引当てを行ったことによって、これによる営業損失を67百万円計上する見込みです。また、フランクリン・ミント事業の第3四半期の営業利益が4百万円だったところ、上述した事由によって第4四半期には49百万円の営業損失となりました。さらに第4四半期には過去数年間にわたって発行した書籍の廃棄損14百万円も計上しました。これらの要因を除き、WEBメディア、モバイル、雑誌等の基幹事業に限ると、収益は堅調に回復しております。

（単位：百万円）

	第3四半期 [実績] (平成18年9月1日～ 平成18年12月31日)	第4四半期 [見込み] (平成19年1月1日～ 平成19年3月31日)
経常利益	99	△36
基幹事業以外で利益に影響を及ぼした主なもの		
・「患者が決めた！いい病院」の営業利益	60	△67
・フランクリン・ミント事業の営業利益	4	△49
・過去の書籍の廃棄損	—	△14

③当期純利益

上述の特別損失の計上および経常利益の減少により、310百万円の当期純損失の計上を見込んでいたところ、予想数値を350百万円下回り、660百万円の当期純損失の計上となる見込みです。

4. 平成19年3月期個別業績見込み数値について

当社は個別の業績予想数値を開示しておりませんが、平成18年3月期の実績値と平成19年3月期の見込み数値との間に差異が生じる見込みですので、以下のとおりお知らせいたします。

①個別業績見込み数値と実績値との差異（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円、%）

	売上高	経常利益	当期純利益
平成18年3月期 実績 (A)	813	76	17
平成19年3月期 見込み (B)	596	61	△1,407
増減額 (B-A)	△216	△14	△1,424
増減率 (%)	△26.6	△19.0	—

②個別業績見込み数値に差異が生じた理由

1)売上高・経常利益

当社は、平成17年10月1日付をもって、マーケティング・データベース事業部門を会社分割の方法によって分割し、新たに設立したオリコン・マーケティング・プロモーション株式会社に承継いたしました。これに伴って、平成18年3月期の下期より当事業部門の売上が子会社に移行したため、平成19年3月期の売上高、並びに経常利益の見込み数値と平成18年3月期の各々の実績値とに差異が生じる見通しです。

2)当期純利益

平成19年3月期において発生した特別損失（関係会社株式評価損、関係会社貸倒引当金、投資有価証券評価損等）が影響し、平成19年3月期の見込み数値と平成18年3月期の実績値とに差異が生じる見通しです。

特別損失の主なものは以下の通りです。

・関係会社株式評価損（フランクリン・ミント(株)）	100百万円
・関係会社貸倒引当金（フランクリン・ミント(株)）	122百万円
・関係会社株式評価損（オリコン・モバイル(株)）	50百万円
・関係会社貸倒引当金（オリコン・モバイル(株)）	50百万円
・関係会社株式評価損（オリコンDD(株)）	554百万円
・関係会社貸倒引当金（オリコンDD(株)）	291百万円
・投資有価証券評価損（CJ Media Japan (株)）	80百万円

なお、オリコンDD株式会社については、PC向け音楽配信事業（昨年11月で事業撤退）およびWEBメディア事業を展開しておりますが、PC向け音楽配信事業の累積赤字により、関係会社株式評価損、並びに関係会社貸倒引当金を計上しております。「ORICON STYLE」サイトを運営するWEBメディア事業については、すでに単月黒字化し、収益の回復を図っております。

5. コーポレートガバナンスの強化について

この度の特別損失の発生、並びに業績予想の修正を重く受け止め、コーポレートガバナンスを一層強化するべく、以下の施策を迅速かつ確実に実施して参ります。

- ・昨年12月に発足した経営戦略会議の意思決定、並びに各事業の状況把握などの機能を強化
- ・内部統制室の新設、並びに内部統制・関係会社管理責任者の招聘（7月1日予定）
- ・本年2月に見直した事業参入・撤退ガイドラインの厳格運用
- ・本年4月に設置した投融資委員会による各案件への精査およびモニタリングの強化

以上

(注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる場合があります。